



官民共同クリーン作戦 D51ひろばで展開 いつまでも神戸市民に称賛され親しまれ続けるために

神 戸駅近くの相生町に旧国鉄時代に活躍した機関車が鎮座しているの、ご存知ですか。

Steam Locomotive、蒸気機関を原動機とする機関車で、頭文字をとって「SL」と呼ばれているものです。相生町に雄姿を残すSLの車両番号は「D511072」。SLの代名詞ともいうべき「デコイチ」として人気の機関車です。

デ コイチは昭和11年から9年の間、主に貨物用の機関車として1115両製造されました。昭和45年以降は、このデコイチがSLの半数を占めるまでになっています。

相生町へやってきたデコイチは、昭和19年2月27日、日本車両の工場で完成したもので、函館に配属されました。その後、岩見沢、旭川、新得、五稜郭、滝川、追分と、北海道の各地で活躍、昭和51年3月廃車になり、昭和53年7月15日、元町へやってきたもの、と鉄道ファンに教えられました。

も とまちハーバー懇談会は、D51ひろばを含み、南北を国道2号線から中央幹線道路、東西をハーバーロード

から神戸駅までの地域をまちづくりの対象にしています。懇談会は昨年9月から「神戸駅東クリーンチーム」の名のもとに、第1水曜日の12時から地元企業や自治会が中心になって地域のクリーン作戦を実施してきました。しかしD51の置かれているひろばは、ちょうど神戸駅駐車場への出入口にあたり、周囲を壁と柵に取り囲まれ、入り口は施錠されているため中へ入ることができずクリーン作戦の手が届かないひろばになっているのです。

D 51ひろばを見ると、タバコの吸い殻や空き缶などがある上、目立つたのはD51の周りを取りまく雑草の繁殖ぶりでした。懇談会は早速、D51ひろばを管理する神戸市市民参画推進局文化交流部文化交流課に連絡を取り、クリーン作戦の対象地域とすること、雑草の刈り取り作業の予定などを問い合わせました。クリーン作戦のために必要な中へ入るための鍵は準備する、との回答は得ましたが、雑草の手入れについては年に一度程度の作業しかできない、というこたえでした。

D51導入時、宮崎市長は「君の雄姿は地域の象徴としていつまでも神戸市民に称賛され親しまれ続けることだろう」と書かれています。が、称賛し親しむべき神戸市民が、「君」をこのような状態にしておくなんてもつてのほか、というべきでしょう。懇談会では、文化交流課に連絡を取り、平成29年12月1日(水)クリーン作戦の日、別働隊として、官民合同(懇談会と市民参画推進局)でD51ひろばの除草作業を実施することにしました。

根っこから引き抜くにはかなりの力がいります。刈り取るという作業も行いました。2時間近く雑草と格闘、作業を終えました。作業を体験してみた結果、雑草を除去

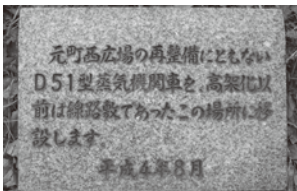


右から草刈に参加した才野亮介・岩本浩司(神戸市市民参画推進局)、片山泰造(懇談会)・木村由己子(相生町自治会)のみなさん

する作業は簡単なことではない、と教えられたのです。参加者が集まり協議した結果、D51の足元から雑草を排除するにはどうすべきか、敷地の一部には、はい松のような低木の樹木もあり、この取扱いを確認したうえ専門家の意見を聞き、雑草と無縁なひろばにできないか、方策を検討することとしたのです。

足元をきれいにした上で、神戸市民がD51と親しむイベントのようなこともできないか、夢をふくらませていくことにしたのです。

地 域の象徴として雄姿をよみがえらせるための道のりは、決して容易なものではありません。が、D51を預かる地元として「神戸市民に称賛され親しまれ続ける」方策を市民のみなさんとともに考えていこうと思っています。本紙編集部(事務局)あてご意見やアイデアなどお寄せいただければ幸いです。(編集部)



設置場所の由来

「元町・夢街道」

書店の話(7)

鳩居堂(6)

岩田 照彦

明治十五年

赤壁賦 貫名海屋書 鳩居堂刊
教育法規要覧 城水兼太郎編 熊

谷久栄堂刊

豪商神兵・湊の魁 垣貫与裕編

熊谷久栄堂刊

明治十七年

訓蒙英習字本・巻一―三 近藤時香編 熊谷久栄堂刊(二十九)

明治十九年

貿易必携 上田観水著 熊谷久栄堂

明治二十年

秋夜の感 大石保吉著 熊谷久栄堂

明治二十一年

新撰珠算問題 藤田義造 熊谷久栄堂

明治二十五年

実地練習 鉄道簿記 久保益良著・高柳豊三郎関 熊谷

久栄堂刊

改正地方学令類纂 塚脇門蔵・入江彦太郎共編

明治二十六年

大祭祀日小学唱歌 平野平編 熊谷久栄堂刊

明治二十八年

新撰遊戯全書 前野関一郎編 熊

谷久栄堂刊

征清偉蹟教育資料 私立兵庫県教育会編 熊谷久栄堂刊

面鑑 石倉五洲画 熊谷久栄堂刊

明治二十九年

諸府県小学教員検定試験問題集 農美重由編 熊谷久栄堂刊

学校式日唱歌集 元橋義敦編・深沢登代吉関 熊谷久栄堂刊

学読本解 荒木矩編 熊谷久栄堂刊

明治三十年

兵庫県県勢要覧・第一回 浦木弘編 熊谷久栄堂刊

神戸名所案内 塚脇門蔵(高城山人)著 熊谷久栄堂刊

明治三十六年

国文学読本解・正編 熊谷久栄堂編・刊

明治三十七年

高等小学読本編纂趣意書 文部省編 熊谷久栄堂刊

明治四十五年六月、熊谷久栄堂は、次の一冊をだすが、発行者は熊谷幸三郎(奥平野三番邸)となっている。長男であるうか。(幸介の住宅は宇治野町二三番屋敷とある)と落合は書いているが、他に、幸太郎、幸裕の名前も登場しており長男とは特定するには無理がある。

明治四十五年 新訳・論語講義 和田鋭夫述 熊谷久栄堂刊

大正三年 マッチ商標史 喜多清三 熊谷久栄堂(三月)

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 1月

◇元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850

元町1番街水曜市

1月17日(水)11時～19時

◇風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もとまち密店「慈雅亭」

1月10日(水)

笑福亭 べ瓶 桂 三扇 笑福亭 鶴二

桂 米二 笑福亭 学光 桂 文珍

前売券は12月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

1月5日(金)～1月9日(火)

神戸大学写真部 部展(写真)

1月11日(木)～1月16日(火)

1.17×23rdの集い

1月18日(木)～1月23日(火)

吉岡充水彩画展「阪神と神戸」

(水彩・仏像彫刻・蒔絵)

1月26日(金)～1月30日(火)

第29回ろうさん公募写真展(写真)

◇元町映画館(有料) TEL366-2636

1月6日(土)～1月12日(金)

『月夜釜合戦』

1月6日(土)～1月19日(金)

『君はひとりじゃない』

1月13日(土)～1月26日(金)

『リベリアの白い血』

『きっと、いい日が待っている』

1月13日(土)～2月2日(金)

『J:ピヨンド・フラメンコ』

1月20日(土)～1月26日(金)

『神戸スポーツ映画祭!2018』

1月27日(土)～2月2日(金)

『水面のあかり』

1月27日(土)～2月9日(金)

『オレの獲物はピンラディン』

1月27日(土)～2月23日(金)

『希望のかなた』

編集後記

明石の有阪陽子さんから「感謝の気持ちでいっぱいです」と便りをいただいた。本紙の元町夢街道欄で1年にわたる連載を読みた、いとこの申し出に、え、写しを送付したことへの礼状である。有坂さんの祖父と祖母の兄が、百年にわたる洋服関係の仕事と聞かされていたが、どのような過程で神戸洋服にかかわってきたのかは教えてくれなかったという。本紙の連載では、地元密着の話を前提にしており、関係した方々のお名前は、そのまま書いている。有坂さんは、人づてに、本紙に祖父たちの名前があることを教えられ連絡してこられたのだろう。資料をまとめただけの話にぬくもりが感じられるようになったと本紙も喜んでいる。



海という名の本屋が消えた (50)

平野義昌

池長 孟 その5

戦後(60年代前半だろう)、ソ連レニングラード(現ロシア、サンクト・ペテルブルク)を訪れた民間友好団体が当地の美術館に神戸での開催を打診した。交換出品の話題になると神戸・兵庫に匹敵する美術品があるかどうか返答に困った。美術館員が言うには、「コウベには、スバラしいコレクションがありますよ。それ、イケナガビジュツカン……」。註1

池長美術館は常設展示ではなく、毎年4月5月の2ヵ月間だけ企画展を開催した。第1回(1940年・昭和15年)から第5回(44年・昭和19年)、出品目録を発行し、池長孟が〈お願い〉の文章で、美術館を「狭小なみすばらしい建物」と卑下しているが、美術品については大いに自慢している。

《……そのかわり中味は世界的に自慢がいいと自惚れています。(中略)この宝物は既に皆様のものなので、充分その価値を認識して、皆様のお力によって、愛護してくださいませよう偏にお願い申し上げます。》註2

入館者数は第1回の1616人から年々減り第5回は1129人になった。日本は国を挙げて戦争に突き進み、国民の生活は「ぜいたくは敵だ」の時代である。入場者数の減少は市民の西洋文化に対する反感・無関心だろうが、文化に親しむどころではなかった。

この状況でも孟は蒐集を続けている。古書店から買い取った銅版画「聖母子像」が長崎大浦天主堂から盗まれたものと判明し、無償で返還する事件もあった。

そんな中、目の肥えた文化人・政治家たちが来館し、記念の色紙を残している。谷崎潤一郎は南蛮美術にちなみ長崎伝承の童謡を揮毫した。画家や絵心のある人はスケッチを添えている。牧野富太郎はダイナミックな筆で一句したためた。彼は池長植物研究所保管の標本返還交渉という目的があった。

42(昭和17)年4月来館した英文学者・寿岳文章の色紙に、「敵機一過 南蛮堂乃 春寂か」とある。当日米軍機による空襲があった。本土空襲が本格化する。展覧会ポスターは時局を反映して勇ましいが、紙質は粗末になる。

44年、孟の育英商業学校校長退任を記念して、卒業生たちが資金を出し、小磯良平に孟の肖像画を依頼した。孟の日記(5月7日)。《……大略出来あがった。近來配給少く、栄養不良で瘦せて顔にも皺が多く、どうなるか心配していたが、若々しく出来て結構だった。》註3

美術館設備に故障があっても職人が兵隊にとられ修理に困る。豪華な電球は防火管制のため使用不能。倉庫の鉄扉は供出させられる。45(昭和20)年、展覧会は開けなかった。頻繁に米軍機が来襲し、3月17日の空襲では市内西部が焼け野原となった。美術館近くの山が燃えだした。

《……もうあかと観念していると、幸山の火もすぐ消え、西の方から海岸にかけて凄惨な炎が舞いあがっていたが、葺合区は大体に事無きを、夜があけて機影も姿をひそめたのである。…

やれ救われた。美術品が、》註4

孟一家は美術品を倉庫に残したまま明石郡押部谷村(現在神戸市北区押部谷町)に疎開した。6月5日の空襲では市内東部が大きな被害を受けた。美術館南側の神学校が米軍捕虜収容所だった。まず、そこに火が付き、美術館住居部分に延焼、何と捕虜たちが消火にあたった。《奇蹟は正に顕現したのだ。(略、長男の書物は焼けたが)美術品は参考書に至るまで総てが安泰だった。押部谷からかけつけて、美術品にとり巻かれながら、倉庫の中で椅子によりかかった私の頬を、滴はとめども無く流れた。ザビエル上人像も、「こんてむつすむん地」も、南蛮屏風も、一つ一つが私の肉であり血である世界的の稀観品は、灰にならなかったのだ。天佑神助と言わずして何であろう。》註4

同年8月15日、我が国の無条件降伏で戦争は終結する。孟は最愛の美術品と共に暮らせるはずであったが、米軍が美術館と住宅を接収した。返還された時には荒れ果て、展示できる状態ではなかった。さらに、国家財政破綻による重税が孟を打ちのめした。

《……利子も生まない美術品に思ひかけぬ財産税が効けられる。今まで公開していただけにその風当たりも颱風どころではない。その上固定資産税も再評価税よと踏んだりけつりの有様、社会公益のためにこれ程尽して来た私には、絶大なる感謝の意を表し、何かの報償を捧げてもよかりそうなものを、日本ではすべてが逆だ。》註5

美術品処分＝散逸の危機に陥った。神戸新聞社会長が行政や経済界に美術館存続を説いてまわるも、不調だった。復興は文化に対して目が向いていなかった。

孟の心の拠り所は自らの美術品である。47(昭和22)年、天皇関西巡幸に際し、蒐集品を見せることができた。48(昭和23)年、兵庫県文化賞受賞。49(昭和24)年、〈聖ザビエル渡来四百年祭〉記念美術展(神戸大丸他)に蒐集品を出品し、新聞に隠れキリシタン末裔との交渉の思ひ出を寄稿している。また、同年フランスの博物館長が美術館を訪問した。

孟は専門家だけではなく、訪れた人たちに親切に説明し、もてなしている。

さて、税金対策である。紅塵荘も子ども名義の土地・家も売却した。いよいよ美術品処分も考えなければならなくなった。同じ頃、孟の胃にガンが見つかった。

50(昭和25)年、親しい高校校長から美術品と美術館を神戸市に委譲という提案があった。校長は市の宮崎辰雄経済局長(のち69年から89年までは市長)に取り次いだ。宮崎は孟の案内で美術品を鑑賞し、その価値を認め、孟も宮崎を信頼し、任せた。宮崎の出した条件は、寄付の代わりに報償金を毎月定額支払うというもの。しかし、役所内で決済が出ない。宮崎は原口忠次郎市長に直談判し、市長決済で話をまとめた。市が土地建物(美術館・住居)を30万円で購入、プラス毎

月5万円を20年間支払う契約。51(昭和26)年7月、池長美術館は神戸市立美術館となり、孟は顧問に就任した。「私の生涯をかけた大事業に永遠の生命を吹き込んでもらったもの」と、感謝の意を表明している。註5 孟は委譲を終えると、東灘区に転居し、蒐集品総目録編纂に取りかかった。図版の多い豪華本にしたかったが、市には予算がない。55(昭和30)年5月『南蛮美術総目録』完成。全375ページの罫半紙に活字だけの目録だが、真贋の判定、区分配列、美術品の来歴、作家の経歴、時代背景、参考文献など詳しく記した。孟は「とりまなおさず南蛮美術史の新しい一つの学科の体系をあみ出した」と誇る。註5

《よくまあこれだけ集めたものだ。膨大とはこれを言うのだ。(中略)一徹な私は先祖譲りの家や土地を皆売り飛ばし、借金をしうして南蛮美術を買った。おはら庄助さんは朝寝朝酒朝風呂が大好きで、それで身上をつぶしたらしいが、私は又南蛮紅毛絵に惚れ込んでエキゾチックに浮き身をやつし、それで身代限りをした。(後略)》註5

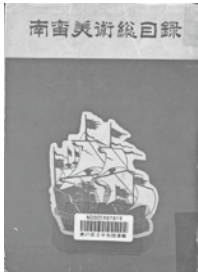
同年8月、孟は胃の病が悪化し入院。同月25日逝去した。最期まで美術品の将来を案じていたと、長男が語っている。註6

65(昭和40)年、美術館は神戸市立南蛮美術館と改称。82(昭和57)年1月から3月、「池長コレクション名品展」を開催、入館者は1万人を超えた。註7

同年、市立考古館と統合、旧居留地に神戸市立博物館として開館し、現在に至る。旧南蛮美術館は神戸市文書館となり、郷土史資料を保存、展示している。

21(大正10)年、孟31歳のとき、池永瑠璃之助の筆名で今様集『紅塵秘抄』を出版している。「修行」と題した歌がある。《酒に酔い痴れ元町の石に一夜を明したら 面壁九年の達磨より 少し短いばかりなり》註8 孟は南蛮美術蒐集という長い夢を見続けた。

- 註1 落合重信・有井基「神戸史話 近代化うら話」創元社、1967年
註2 「第二回～第四回の出品目録」(『南蛮堂コレクションと池長孟』展カタログ、神戸市立博物館、2003年所収)
註3 池長孟「昭和十九年美術館日記」(同上)
註4 池長孟「自筆備忘録」(同上)「こんてむつすむん地」はラテン語宗教書「コンテムツス＝ムンチ」(キリストに倣いて)の抄訳本。1611年京都で印刷。これに先立ち、1596年本草で翻訳本が出版(ローマ字)されている。
註5 『市立神戸美術館収蔵 南蛮美術総目録』市立神戸美術館、1955年
註6 『池長孟追憶志』池長孟君を偲ぶ会、1955年
註7 高見澤たか子「金箔の港、筑摩書房、1989年
註8 池長孟「紅塵秘抄」(『南蛮堂コレクションと池長孟』展カタログ所収)「今様」は平安時代に生まれた七五調四句の歌。



旧南蛮美術館、現在神戸市文書館



『南蛮美術総目録』神戸市立中央図書館蔵

出来事ファイル (No.18-1)

■みなと元町駅で元町の芸術家たち展

地下鉄海岸線みなと元町駅改札口前の壁面に、「元町の芸術家たち」の作品が展示されることになった。明治7年(1874)の元町誕生以来、こうべ元町から発信している「文化の風」、そして「元町を支えている人々のセンスと人間性をアピールしよう」を基本コンセプトに、幕開けは白佐愛子氏の作品「アメ・マド」シリーズの銅版画と木版画が展示されている。



■栄町通で 貸切バス対策実証実験終わる

国土交通省は神戸市と連携して、11月24日(金)～27日(月)の間、事前に予約を受け付け、観光(貸切)バス対策実証実験を行った。観光中の時間、バスが待機するための駐車場も新港第2突堤に準備した。タウン協地域では、メリケンロード天安門付近に集中する駐停車による混雑をなくすため、栄町通に降車場2か所、乗車場を1か所設けての実験。



■フラメンコインMOTOMACHI-5

タウン協議会が作成して人気を集めていた5丁目商店街の恒例イベント、フラメンココンサートが11月12日(日)13時と15時の2回、走水神社近くの特設ステージで開かれた。ギターとカホンとパルマの音色に松木匠さんの歌。踊りはおなじみの東仲マヤさんと同舞踏研究所員のみなさん。用意された椅子席は開宴前にすでに満席、取り囲んだ人たちがフラメンコのメリハリの利いた踊りに見入っていた。



■たすき掛けで勢揃い 元栄海三丁目

元栄海三丁目協会は、同町内の全域を毎月第三月曜日の午前10時から、会員総出で元栄海3町目全地域にわたりクリーン作戦を行っている。このほど同会では、揃いのたすき掛けでクリーン作戦をおこなっている地域のあることを知り、赤の布地に「元栄海三丁目協会」と染め抜いたものを作成、11月の活動から全員、肩にかけて実施することに。



■元町から 手品の楽しみ次世代へ

手品師のモハメッド福岡さんは、毎週日曜日、4丁目商店街のまちづくり会館前で、通りを行き交う子どもさんを対象に手品を披露。時には種をあかして、手品をやってみない?と問いかけることも。マジック上達の秘訣は見せ方に、という福岡さんは3月から同会館で、月に1度、マジック道場も開校する。問合せ先 090-8538-0628福岡さん迄。



モハメッド福岡さんが見守るなか、子供とマジックを楽しむ藤山翔大くん

■生田警察署と元町の懇談会開催

タウン協議会と元町商店街は11月21日(火)午後3時からまちづくり会館で恒例の生田警察署との懇談会を開いた。福本明彦署長から地域全体の状況につき説明を受けたあと、各部署責任者から詳細な地域の状況につき報告を受けた。一方、地元から来街者の安全面から、商店街内での車両や外国人を含む自転車通行への対応、不法駐輪などの状況などを報告、懇談した。



ブース前で左から井上哲・藤永武さん

□読者プレゼント

展覧会鑑賞ご希望の方は、はがきに住所、氏名、年齢、本紙へのひとことを添えて編集部まで。先着順で5名の方にペア招待券をお送ります。

冬季特別展「天才たちの青春」
場所 明石市立文化博物館
078-918-5400
期間 1月13日(土)～2月4日(日)



パウル・クレー「椅子に座る少女」19～20才ころの作品